令和8年度　指定管理者総合評価表（評価対象年度：R7年度）

令和7年度事業に係る事業報告書等に基づき、指定管理者による管理運営状況について確認、検証した結果、下記のとおり評価しました。

施設名	津市たるみ老人福祉センター
指定管理者	社会福祉法人　津市社会福祉事業団
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
施設の設置目的	高齢者の健康増進及び教養の向上等、地域の「憩いの場」や「生きがい活動の拠点」として、施設を提供することにより、高齢者福祉の増進を図る。
指定管理者の業務	・センターの使用の許可に関する業務 ・施設設備器具等の維持管理に関する業務 ・その他、市長が必要と認める業務
評価担当部課 （問い合わせ先）	健康福祉部高齢福祉課高齢福祉担当（電話059-229-3156）

評価は◎非常に良い、〇良い、△やや悪い、×悪いの4段階です

区分	評価項目	検証結果	評価結果
管理状況について	適正な人員配置	所長1名及び事務補助員4名の体制により、開館中は常時職員を配置し、施設の利用受付、事業実施、安全管理及び緊急時対応に必要な人員体制が確保されていた。	◎
	従事者の教育・研修	「笑顔とあいさつ、親切丁寧な対応」を基本として、職場ミーティングを通じて接遇、安全確保及び事故防止に関する意識の向上に努めていた。また、他施設で発生した事故について法人全体で情報共有し、類似事故の防止に取り組んでいた。一方、収支決算上の研修研究費の執行はなく、今後は高齢者対応、救命、感染症対策等に係る研修実績をより明確にすることが望まれる。	〇
	関係法令の遵守	地方自治法、老人福祉法その他の関係法令に基づき業務が実施されていた。また、浴場については、法令に基づく水質検査や残留塩素濃度の測定を行うなど、関係基準に沿った管理が行われていた。	◎
	緊急時等の対応	消防計画に基づく防災訓練を年2回実施し、緊急地震速報を活用して職員及び利用者の防災意識の向上を図っていた。また、救急搬送事案の増加を踏まえ、AEDを使用した救命法の習得や、一人暮らしの利用者への緊急連絡先登録の呼びかけを行うなど、利用者の高齢化に対応した取組が実施されていた。事故等の発生時にはセンターから事務局及び市へ報告し、再発防止策を検討する体制も整えられていた。	◎
	備品等の管理	築44年を経過し、建物及び設備の経年劣化が進む中、日常点検による不具合の早期発見に努め、浴槽タイル、浴室照明及びシャワー水栓の取替え等の軽微な修繕に迅速に対応していた。重要な修繕等については市と協議し、計画的な修繕の提案も行っていた。	◎
	個人情報保護	利用者情報及び緊急連絡先等の個人情報について、関係法令等に基づき適正な取扱いに努めており、個人情報の漏えい等の問題は報告されていない。	◎
	施設・設備の保守点検	電気設備、消防設備、浴場ろ過・配管設備、空調設備、ボイラー及び電位治療器について、専門業者による定期点検及び保守管理が行われていた。令和7年度には給湯ボイラー設備の改修を実施し、前年度に生じた入浴サービス休止を踏まえ、安定的なサービス提供に必要な設備整備が図られていた。	◎

	清掃業務	日常清掃及び施設内外の環境整備を行い、施設を清潔に保っていた。特に浴場では、日々の清掃、定期的な水質検査、循環ろ過設備等の消毒及び1日最低2回の残留塩素濃度測定を行い、レジオネラ菌感染症の予防を徹底していた。	◎
	警備業務	施設内の安全確認に加え、夜間及び休館日は警備会社による機械警備を実施し、24時間の監視体制が確保されていた。	○
	環境への配慮	サービス水準を維持しながら、照明の間引き、空調設備の省エネ温度設定、古紙の裏面利用等に取り組み、省資源及び省エネルギーに配慮した施設運営が行われていた。	◎
	報告書等の整理及び提出	利用状況や事業実施状況、収支決算等について必要な報告が行われていた。また、事故や施設の不具合について、必要に応じて市へ報告・協議する体制が確保されていた。	◎
運営状況について	利用状況	年間利用者数は29,164人、1日平均100人で、前年度の27,391人から1,773人、率にして約6.5%増加した。クラブ活動等を継続していた利用者が高齢等により来所できなくなるケースがある一方、西部市民センター浴場の利用休止に伴い、令和8年1月以降の浴場利用者が増加した。浴室利用者は19,135人で、前年度から3,546人増加しており、代替的な受入れを含めて地域の高齢者福祉施設としての役割を果たした。	◎
	利用者満足度の向上	各クラブ代表者で構成する運営会議を年7回開催し、利用者の意見を施設運営に反映するとともに、利用者の自主的な活動を支援していた。「笑顔とあいさつ、公平丁寧な対応」を心掛け、利用しやすく楽しく過ごせる施設づくりに取り組んでいた。	◎
	地域や関係団体との交流・連携	地域包括支援センターと連携し、介護予防、認知症、消費者トラブル、ACP等をテーマとする「すこやかセミナー」を毎月1回、年間12回開催し、延べ133人が参加した。また、近隣施設と協力して「ないろフェスタ」を開催したほか、老人会及び婦人会の活動を支援し、地域交流の場を提供していた。	○
	利用者の苦情、要望等の対応	運営会議等を通じて利用者の意見や要望の把握に努め、利用しやすい施設づくりに反映していた。また、事故や危険箇所等については、職場ミーティング等で対応策及び再発防止策を検討する体制が確保されていた。	◎
	事業の実施状況	看護師による健康相談を毎月2回実施したほか、卓球、健康体操、民踊、カラオケ等の運動・文化教養活動、機能回復訓練及び入浴サービス等を実施し、高齢者の健康増進、教養の向上及び交流機会の確保に努めていた。調理実習については利用者の高齢化等により実施団体がなく、健康相談室及び機能回復訓練室等の利用者数も前年度を下回っていることから、ニーズの変化を踏まえた事業内容の検討が求められる。	○
	その他	諸室の換気、検温、手指消毒及びマスク着用の呼びかけを行い、来所者の感染防止及び衛生管理に配慮していた。また、利用者の高齢化を踏まえ、日常的な健康状態の確認や緊急時対応にも努めていた。	○
自主事業について	自主事業の適切な実施	10月25日に文化祭を開催し、48組が出演した。協力者が減少する中でも、運営会議での協議を通じ、利用者による自主的な運営を支援した。また、「すこやかセミナー」を年間12回実施し、高齢者の健康維持、介護予防及び生活上の課題に関する学習機会を継続的に提供しており、施設の設置目的に沿った自主事業が実施されていた。	○

雇用・労働条件について	労働関係法令の遵守	必要な職員を配置し、労働関係法令に配慮した雇用及び勤務体制の下で業務が実施されていた。職員の勤務や雇用条件に関する問題は報告されていない。	◎
収支状況について	収支決算状況	予算の範囲内で経費節減に努めていた。一方、指定管理料収入のみでは支出を賄えていないことから、今後もサービス水準を維持しつつ、収支状況及び経費の推移を継続的に確認する必要がある。	△

【総合評価】　※適正な管理運営を行ってきたかを記入する

津市たるみ老人福祉センターは、高齢者の健康増進や生きがいづくりを支援する地域の拠点として、おおむね適正に管理運営された。年間利用者数は29,164人で、前年度から1,773人増加し、特に他施設の浴場休止に伴う利用者を受け入れるなど、地域の高齢者福祉に寄与した。

事業面では、健康相談や各種活動に加え、運営会議、文化祭及び「すこやかセミナー」を実施し、利用者の自主活動や地域交流を支援した。施設管理面でも、設備の定期点検や修繕、浴場の衛生管理、防災・救命対策が適切に行われていた。

収支は予算の範囲内で執行されたが、事業活動資金の不足を繰入金で補填しており、今後も経費の推移を確認する必要がある。

以上から、施設の老朽化や利用者の高齢化に対応しつつ、全体として良好に運営されたと評価する。

【指定管理者に対して行った指導助言の内容・今後の業務改善（向上）に向けた考え方】

利用者への公平かつ丁寧な対応を継続するとともに、施設の老朽化を踏まえ、日常点検による不具合の早期発見と迅速な対応、市への適時の報告・提案に努めるよう助言した。

また、救急搬送事案の増加を踏まえ、利用者の体調変化や入浴時の事故等に注意し、救命対応と緊急連絡体制を定期的に確認するよう求めた。利用者の高齢化やニーズの変化に対応するため、関係機関と連携した介護予防事業等の充実を図るとともに、サービス水準を維持しながら、安定的かつ効率的な運営に努めるよう助言した。

収支決算状況について、物価高騰の影響を受けたことによる負担増、最低賃金の上昇等に伴う人件費の増額が認められるが、今後も施設を管理運営できるよう、支出内容の分析等により更なる支出の減に務めるなど、収支状況を改善されたい。